

復権

障がい者の復権に向けてやるべきこと 第39回研究大会 in 東京

コロナ禍で2020年から2年続けて開催されなかった回復期リハビリテーション病棟協会主催の研究大会が3年ぶりに東京お台場のホテル会場とWebのハイブリッド方式で開かれ、約1,600名のリハビリテーション医療関係者が一堂に会する大切な空間が戻ってきた。

約1週間前から再び首都圏各地で新種株への感染者が急拡大し、会場参加・宿泊のキャンセルが相次いだ。直接来場者は約250名に留まったが、2日間入念な感染症対策のもと、大会長講演、基調講演、特別講演4題、招待講演2題、教育講演9題、シンポジウム2題、委員会企画7題、大会企画セミナー2題、一般演題発表、ポスター発表(Web会場)、追悼講演等、練り込まれた各企画が予定通り進んだ。大会事務局として各会場でプログラム進行を担当した(医社)輝生会スタッフの抑制がきき、統制のとれた運営が光った。

大会2日間の盛りだくさんのプログラムの中から今号は大会2日間の概要と菅原英和大会長の講演、二木立にきりゅう日本福祉大学名誉教授による追悼講演「石川誠さんの業績―回復期リハビリテーション病棟を中心に」内容を再録した。次号7月号でも引き続き特別講演、教育講演、大会企画セミナーなどから臨床に役立つ内容を取り上げていく。